

## 食育で広がる地域の輪

### 小学生と協働！豆腐づくり

代表者 難波 恵伍（経済学部地域社会システム学科3年）

#### 1. 目的と概要

直島が抱える地域課題として、まだ有効活用されていない地域資源の存在が挙げられる。その中のひとつに、直島の特産品として有名な SOLASHIO を作る際に生じる「にがり」がある。現在この「にがり」は、安価な価格で島外へ卸されており、島内では有効活用されていない。私たちはこの問題に着目し、直島で採れたにがりを使用して豆腐をつくり、地産地消に取り組みたいと考えた。

この事業の長期的な目標は、直島産の「にがり」と「大豆」を使用してつくった豆腐を、直島の特産品として販売することである。昨年度は、島内での大豆の栽培実験と、島民の方々を対象とした豆腐づくりワークショップを開催した。しかし大豆の栽培実験は、水やりの頻度や悪天候などの影響により、成功しなかった。

この経験を踏まえ今年度は、直島小学校協力のもと、小学生と一緒に大豆の栽培に取り組んだ。小学生と協働することにより、私たちだけでは難しい、平日の水やり等を補うことができた。また小学生も、私たちと一緒に大豆を栽培することで、島民の方々とのつながりを広げられるだけでなく、地域資源の魅力を再発見することができる。また小学生を対象に、育てた大豆を使用した豆腐づくりのワークショップを開催することで、食育につながるのではないかと考えた。

#### 2. 実施期間（実施日）

平成30年7月10日（火）～

平成31年2月28日（木）

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

#### 【実施内容】

#### ①直島小学校の小学生との大豆栽培

直島小学校の2年生と協働して大豆栽培を行った。小学校が夏休みの期間は、大学生が中心となり、水やりや草抜きを行った。



大豆の種まき、草抜きの様子

#### ②豆腐のつくり方をメンバー間で共有する

昨年度の取り組みの中で、直島島民の奥田さんから豆腐のつくり方を学んだ。メンバーは直島の宮浦地区にある「エコタウンハウス」を訪れ、豆腐のつくり方を一から教わった。その後、豆腐のつくり方を学んだメンバーが中心となり部室で豆腐を試作するなどして、他のメンバーにも豆腐のつくり方を共有した。



昨年度の豆腐づくりの様子



なまごを型に流し、豆腐の完成を待つ

### ③豆腐づくりのワークショップ

実施日：平成30年12月5日(水)

場所：直島小学校家庭科室

参加者：直島小学校2年生：22名 先生：4名

内容：豆腐作り

豆腐にまつわるクイズ



豆腐づくりの様子



豆腐実食！

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を進めていく中で、「オリーブ通信」というウェブサイトで、大豆栽培やワークショップの様子などが取り上げられた。このことは、香川大学直島地域活性化プロジェクトとしての活動を、島民の方々のみならず、島外の方々にも知ってもらうきっかけとなった。さらに、今年度はワークショップを直島小学校で開催できたため、以下のことが達成できた。

- ・地域資源の存在を島内に発信できた。
- ・地域資源の有効活用の改善につながった。
- ・地域の活性化・食育を図ることができた。

また今年度の事業では、小学生と協働して大豆を栽培し豆腐づくりを行うことで、小学生だけでなく、保護者の方にも豆腐作りのワークショップを通して、「にがり」の存在を知っていただき、地域資源の存在に気付くきっかけを作ることができたと考える。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

##### ●地域を見直すきっかけ

普段私たちは直島で活動をしているが、カフェの営業が習慣化しており、活動の拠点としてでしか直島を見ることができなくなっていた。そのため今回の活動の中で、直島の資

源の有効活用を考え、ワークショップとして企画・実行できたことは、自分たちの視野を広げるきっかけとなった。

#### ●小学生との交流

私たちは今回の活動以外にも、直島小学校の小学生とは多数のイベントを通して交流している。今回のワークショップを通じて、さらに小学生や先生方との交流を深めることができたため、来年度以降の大豆栽培も協働して行うための基盤づくりができた。さらに今年度は食育をテーマとして掲げており、大学生と豆腐づくりのワークショップを通して交流することで、食の大切さを学んでもらえた。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

### 【反省点】

#### ●豆腐づくりのワークショップを1度しか開催できなかった

当初の計画では、12月～1月の間に2度のワークショップを開催する予定だった。ワークショップの開催が1回になった原因としては、当事業の主要メンバーであった3年生しかワークショップの具体的な内容を把握しておらず、就職活動などで年明けから活動することが難しくなったからだ。この反省を生かし、来年度は1～4年生全員が本事業に携われる仕組みを作る。

### 【今後の抱負（計画）】

#### ●今年度に引き続き直島小学校での大豆栽培を行う

今年度は、直島小学校の協力のもと直島での大豆栽培に成功した。しかし初動が遅く、水やりが小学校の夏休み期間と重なったり、当初の計画よりも小学生と大学生が協働で行う作業が少なくなった。

そのため来年度からは、植え付けを春に、収穫を夏休み前までに終わらせるように計画する。

#### ●メンバーの豆腐づくりのスキルの向上を目指す

メンバー1人ひとりが、ワークショップの参加者や豆腐づくりを経験したことのない方に、豆腐の作り方を一から教えられるように、部室内での豆腐の試作の頻度を増やすなどして、豆腐づくりのスキル向上を目指す。

#### ●豆腐づくりワークショップを島内の方、さらには島外の方向けにも企画・実施し、直島産品の魅力発信に取り組む

今年度のワークショップは、大豆栽培に関わってくれた直島小学校の小学2年生を対象に実施した。今後は、直島島外の方を対象としたワークショップや、直島島民と観光客、島外の方が一同に参加できるワークショップを開催することにより、直島の地域資源を発信する機会を設けたいと考える。

## 7. 実施メンバー

代表者 難波 恵伍（経済学部3年）

副代表者 嶋田 梨沙（教育学部3年）

構成員 岡村 優佳（経済学部3年） 岡本 萌花（法学部3年）  
 小川 詩織（経済学部3年） 尾山 綺菜（経済学部3年）  
 香西 佐和子（経済学部3年） 鎌倉菜七子（経済学部3年）  
 桑野 渚（教育学部3年） 多賀 光洋（経済学部3年）  
 根岸 実央（経済学部3年） 毛利 仁美（教育学部3年）  
 山岡 麗仁奈（経済学部3年） 磯山 敦（工学部2年）  
 小林 弦生（経済学部2年） 岸 杏実子（教育学部2年）  
 中丸 晴太（経済学部2年） 福島 悠介（法学部2年）  
 藤森 世紀（経済学部2年） 三重野 楓樹（工学部2年）  
 松下 ひなた（工学部1年） 中村 初音（教育学部4年）  
 原 雄一朗（経済学部4年） 藤本 釉美（経済学部4年）  
 山崎 真由（経済学部4年）

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		191000円		
執行経費（品目など）	数量	単位（円）	金額（円）	備考
フェリー代：高松～直島往復	26	990	25740	
バス代：往復	26	200	5200	
豆腐作成キット	10	3024	30240	
大豆（10kg）	1	5400	5400	
鳥よけネット	6	5292	31752	
<b>合計</b>			<b>92668</b>	